2024 年度 自己評価報告書

学校法人北海道カトリック学園 認定こども園 小樽藤幼稚園

1 本年度の重点目標

(教育目標)

「ひとりひとりの 咲くべき花を 咲かせよう

～うつくしく やさしく しなやかに～」

1. キリスト教の人間観に基づき、一人ひとりの子供はかけがえのない神の似姿であることから、人格の基礎作りに重点を置いて教育を行います。
2. 人間を超えた御者に対する畏敬の念・他人を思いやる優しい心・許す心・感謝する心を育てます。
3. 一人ひとりの持っている可能性を开花させ、調和のとれた豊かな人格の成長を援助します。

2 評価方法

評価方法は、目的達成状況などに応じ6段階とする。

- A → 十分達成されている。
- A⁻ → 概ね達成されたが、工夫や改善する必要がある。
- B⁺ → 若干上回って達成されている。
- B → 達成されている。
- B⁻ → 概ね達成されているが、工夫や改善する必要がある。
- C → 取り組まれているが、成果が十分でない。

3 自己評価結果

分野	評価項目	自己評価	
		達成状況	実施状況と改善方策
教育課程・指導	<p>1 建学の精神であるキリスト教や教育目標・方針について、教職員と定期的な話し合いなどを通じて理解を深めている。</p> <p>2 幼稚園教育要領を理解し、園児の特性に応じ、又、主体的な活動を尊重するとともに遊びを通して総合的な指導を行うなど、発達状況に即した指導をおこなっている。</p> <p>3 年間の行事予定や指導計画などは、教職員と協力し、工夫を凝らし策定している。</p>	A ⁻	<p>学校法人は移管したが、建学の精神に基づいた教育目標を継承し、カトリック園の基盤は変わらない。</p> <p>日々の保育での振り返りの中で、補足、改善、継続をしながら、食育体験や地域との関りを保育に取り込む機会が増えた。</p> <p>年間行事に関しては、数年ぶりに運動会を全園児開催にし、年齢に応じた成長を見ることに、保護者からの賛同も多かった。年長児の施設訪問も再開でき、子どもたちにとって異世代交流の大切さを改めて感じた。秋には園外をたくさん歩き、秋の自然を満喫することが出来た。</p>

<p>研修 (資質向上の取組み)</p>	<p>園内外における研修については、教職員が積極的に参加し、能力・資質の向上に努められるよう環境を整えている。</p>	<p>A-</p>	<p>法人移管により、カトリック学園内研修に参加できたことは、職員にとって新しい経験となった。他園を見ることは机上の研修とは違う学びを感じる。受講して終わりではなく、明日の保育に活かせるように、研修で得たことを職員間で共有したい。今後も職員一人ひとりの積極的な研修参加を希望し、その体制づくりに配慮、また、正職員に限らず全職員が学びたい研修に参加ができるよう、環境を整えていく。</p>
<p>教育目標・学校評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 教育目標を設定するとともに、全教職員による自己評価を実施し、次年度の教育活動の参考としている。 2 家庭での生活体験に配慮し、園児の自立心を育て、他の園児と関わりながら生活に必要な習慣を身に付け、見通しを持って行動できるようにしている。 3 園に対する保護者からの意見・要望については適時実施し、可能なものから順次取り入れるなどしている。 	<p>A-</p>	<p>教職員による自己評価については、毎年年度末に実施、掲示板とホームページにて公表している。</p> <p>認定こども園となり4月以降は、開園時間が長くなり、開園日も2号認定児に合わせ増加した。職員もシフトで勤務するため、お迎え時の連絡が担任以外の職員が対応することも出てきた。家庭との連携を保つために、必要に応じて担任が直接連絡すること、他の職員が代行しても当日のうちに伝えることを配慮してきた。全職員の情報の共有を今後も徹底していく。</p>
<p>情報提供</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 園児の個人情報については、適切、かつ慎重に取り扱っている。 2 園だよりやキッズリー、ホームページ、インスタグラム、教育・保育活動、その他の学校運営の状況について積極的な情報提供に努めている。 	<p>A-</p>	<p>個人情報については、園としての情報漏洩がないよう、また個人の意見に即して、慎重に配慮して対応している。</p> <p>インスタグラムは保護者に好評だが、配信の回数をもう少し充実できると良いが、まずは保育が優先であることを忘れない。配信された内容の奥に、保育の目的や子どもたちの成長があることを伝えていく。</p> <p>HPのリニューアルにより、さらに充実し、どの保護者にも知っていただく機会を作っていく。</p>

保護者・地域住民との連携	<ol style="list-style-type: none"> 1 PTA との懇談やクラス毎の交流などを通じ、保護者と連携を図り、園の適正な運営に努めている。 2 地域の文化や伝統に触れる機会を大切にしている。 	A-	<p>父母の会主催でハロウィンやお正月会の品物づくり、園周囲の環境づくり（草刈り、花壇・グラウンド整備）と、保護者の保育参加があり、とても有難かった。次年度は和菓子作りや大型客船見学など、小樽ならではの経験をさらに充実させていき、子どもたちにも小樽という街への愛着をより持ってほしい。</p>
子育て支援	<p>園児の心身の健康と発達の状況などについて、保護者と共通理解を得るように努めるとともに家庭や専門機関と連携を図り適切な指導を図っている。また、保護者の子育てへの不安、育児のニーズを理解しようと努めている。</p>	A-	<p>経験のある職員が多いため、保護者の思いを傾聴しながら、子育ての悩みに寄り添っていけるように努めてきた。未就園児の母子同伴クラスは週 1 回の開催を継続し、内容を充実できるよう進めてきた。保護者同士の交流の場としても、地域の中で認知されるよう情報提供していく。</p>

保健管理	<ol style="list-style-type: none"> 1 学校保健計画を作成し、家庭や保健・医療機関と連携の上実施している。 2 日常の健康観察や疾病予防の取り組みのほか、健康診断を定期的に行っている。 	A-	<p>内科健診が年 2 回の実施となった。家庭での検温表、昼食時の検温が子どもたちの体調管理に有効であることを実感している。今後も継続していく。</p> <p>今年度は大きな感染症の拡大は無かったが、一つの感染症でも症状の違いがあり感染症に対する知識を増やすとともに、罹患した子どもがいた場合は速やかに保護者に情報提供をし、感染の拡大を防止していく。</p>
安全管理	<ol style="list-style-type: none"> 1 安全計画や防災計画を策定し、定期的に避難訓練などを実施し、安全対応能力の向上を図っている。 2 安全計画等、各種マニュアルが整備され、職員に周知している。 	A-	<p>今年度から毎月の避難訓練の実施となった。2 階の滑り台からの避難、防災頭巾の着用、不審者訓練、冬期のスキーウェア着用避難など、様々なパターンでの避難訓練を積み重ね、振り返りを行ってきた。今後も、対策を積み重ねていきたい。</p> <p>園周辺の危険箇所や園内のヒヤリハットなど、日々の保育の中から気付いたことは問題提起し、対策を考えていく。</p>

特別支援教育	<p>家庭との連携を図るとともに園内支援体制の下、園児ごとの指導計画を作成している。</p> <p>療育機関と連携し、保育所等訪問支援の受け入れ、そして園側からも療育機関の訪問を積極的に行っていく。</p>	A-	<p>園児一人ひとりの状況を把握し、保護者の理解や全教職員による共通理解のもと、指導計画に沿って教育活動を実施している。</p> <p>地域の関係者との連携は取れているが、もう一歩進めて子どもの育ちに繋がるよう努めたい。</p>
組織運営	<ol style="list-style-type: none"> 1 クラス担任や主任を配置するなどし、教職員相互の連携協力の下、園の適正・円滑な運営に努めている。 2 園児等の個人情報の取り扱いと管理については、適正におこなっており、また、保育に関わる公文書についても適切に管理している。 3 教職員の勤務時間やサービスなどについては、就業規則の定めに沿って適正に対処している。 	A	<p>主任の配置は可能になった。小規模な園ではあるが、今後は保育リーダーも機能させながら、園の教育方針のもと、それぞれの役割の中で保育の質の向上に努めていく。個人情報の取り扱いには引き続き細心の注意を払っていく。就業規則に関する法令等の順守については、シフトで動くことが定着した。有休の適切かつ平等な取得、自己管理を年度初めに周知し、働きやすい職場環境づくりを進めていく。</p>
預かり保育	<p>認定こども園として、1号認定児、2号認定児の保護者の実情やニーズに応じ、家庭と連携を図りながら実施している。</p>	A-	<p>こども園としての役割を踏まえ、預かり保育の時間帯が大切になっている。専属の職員を配置でき、環境も整ってきた。長時間利用の園児も多くなってきた。午睡を適宜に取り、体調の変化や怪我には十分配慮していく。</p> <p>低年齢児の利用が増えているため、職員の配置や長期休みの運営に工夫が必要である。</p>
教育環境整備	<p>園児にとって安全でふさわしい施設・設備を整えるよう環境の整備に努力している。また主体的な活動を促すとともに季節や周囲の自然などを活かした環境に配慮している。</p>	A-	<p>気候の変動による夏の暑さは、今後も継続しそうである。今年度はホールと職員室にエアコン設置が叶い、戸外が危険な高温時にもホールで過ごすことが出来るようになった。また、職員の職務遂行のためにも、職員室にエアコンが設置されたことは、保育の向上にも繋がるものである。</p> <p>冬は暖冬傾向ではあったが、ストーブの点検を依頼したところ、園舎の室温が上がり過ごしやすくなった。</p> <p>次年度は耐震化工事を予定している。</p>

4 総合評価

達成状況	計画に対する評価と課題に対する今後の改善方針など
A-	<p>今年度は学校法人の移管に伴い、幼稚園型認定こども園へ移行、利用定員の変更など変化はあったが、園自体は落ち着いて過ごすことが出来た。4月の新入園が減っていることもあるが、常に落ちついた雰囲気の中で新入園児を迎えていくことができるのは安定感がある。職員も落ち着いた雰囲気の中で保育を進めることが出来ている。</p> <p>こども園として開園日が増加するなどの変化はあるが、こども園としての役割を今後も鑑みながら、行事の在り方を再考していく。</p> <p>保護者の尽力による行事への参加や環境整備など、保護者の保育参加が見られたことは非常に心強かった。こどもたち、保護者、職員にとって愛される園であることが、1番の願いであり今後も努力していきたい。</p> <p>行事では我が子のクラスだけではなく、全園児の育ちを全保護者が感じてくれたらと願い、運動会は全体開催にした。保護者の反応も良く、学年によるその育ちの違いを感じていただけなのは良かった。行事でも日常の保育でも、どのような目的があるのか、その過程にどんな育ちがあったのか、保護者に伝えていく方策を考えていきたい。</p> <p>地域に小樽藤幼稚園の保育をもっと知ってもらいたい。保育をさらに充実し、「小樽」ならではの保育や地域に根ざした保育をすすめ、地域に愛されていく藤幼稚園でありたいと思う。</p>

5 学校関係者からの助言

<p>小樽藤幼稚園の子どもたちに落ち着きを感じるのは、カトリックの祈りを大切にする心なのではないかと思う。</p> <p>教育の根幹となる部分は大切に継続しつつ、小学校へ繋ぎとなるように人の話に耳を傾ける姿勢を作っているのが伝わってくる。半面、ホールや戸外では元気に過ごし、メリハリのついた保育を進めている。</p> <p>少人数ならではの環境が、上の子を見て下の子が育つ要因になっているようにも感じる。</p> <p>保護者が協力的であるので、幼稚園と共に保護者も育って行って欲しいと思う。</p> <p>他から入職した職員の力もあり、今年度は新しい保育の姿を見せているように感じた。</p> <p>個人情報管理に関しては、SNSの影響の怖さを最近のニュースで感じるころだと思う。保護者一人ひとりにも再度確認していただき、園全体でトラブル防止に配慮して欲しい。</p> <p>幼稚園の良さは小学校に行くと感じるが多い。幼稚園でやるべきこと、出来ないことをしっかり伝えながら引き続き教育に尽力していただきたい。</p>